

経営統合までの歴史・沿革

出光興産・昭和シェル石油の両社は、100年以上にわたってエネルギーの安定供給に尽力してきました。
経営ビジョン・行動指針をもとに、これからも全てのステークホルダーと共に新しい価値を共創し続けていきます。

出光興産

1911
門司(福岡県)で出光商会 創業



1919
満鉄(中国・南満州鉄道)用の凍結しない車軸油の開発



1923
計量器付配給船を考案、漁船燃料油の中身給油開始

1938
大型タンカー 日章丸(一世)就航

1940
出光興産(株)設立



1945
敗戦により国内外の事業消滅

1947
全国29店舗が石油配給公団販売店に指定され、石油業に復帰
出光商会と出光興産(株)合併

1949
元売り業者に指定

1952
高オクタン価「アポロガソリン」発売

1953
イランとの直接取引で石油製品を輸入(日章丸事件)



1957
徳山製油所 竣工(現 徳山事業所)

1963
千葉製油所 竣工(現 千葉事業所)

1964
出光石油化学(株)設立、
徳山工場 竣工(現 徳山事業所)

1967
「出光100ガソリン」発売

主な社会の動き

1914 第一次世界大戦 勃発(1918終結)

1939 第二次世界大戦 勃発

1946 日本国憲法 公布

1923 関東大震災 発生

1941 太平洋戦争 勃発(1945終結)

1900

1910

1920

1930

1940

1950

1960

主な業界の動き

1899 石油輸入関税 実施

1943 石油専売法 公布・施行(1946廃止)

1903 石油消費税 実施

1955 石油連盟 発足

昭和シェル石油

1833
マーカス・サミュエルがロンドンに東洋の貝殻を扱う店舗を開店、これがシェルのトレードマークの起源

1876
ライジングサンの前身サミュエル商会、横浜(神奈川県)で貿易業開始

1893
日本初となるバラ積み灯油を輸入(灯油の普及)

1900
サミュエル商会は石油部門を独立させ、ライジングサン石油(株)を設立



1907
ライジングサン石油(株)がシェルグループの日本の拠点として事業展開を開始

1909
ライジングサン石油(株)西戸崎製油所竣工(後に、旭石油(株)へ貸与)
軽油・灯油・潤滑油の精製開始

1917
自動車用ガソリン「赤貝印」、「黒貝印」発売開始



1924
輸入重油の販売を目的に日本重油(株)設立(現 東亜石油(株))
ライジングサン石油(株)イギリスより初めてタンクローリー輸入

1942
早山石油(株)、旭石油(株)、新津石油(株)の3社合併により昭和石油(株)設立

1948
ライジングサン石油(株)がシェル石油(株)に改称

1949
昭和石油(株)、シェル石油(株)が石油元売り業者に指定

1951
シェルグループが昭和石油(株)に資本参加

1955
東亜石油(株)川崎製油所 竣工

1957
昭和四日市石油(株)設立

1958
昭和四日市石油(株)
四日市製油所 竣工



1962
西部石油(株) 設立

1970

中央研究所 開所
(現 次世代技術研究所)

1973

北海道製油所 竣工

1975

出光石油化学(株)千葉工場 竣工
(現 千葉事業所)
愛知製油所 竣工

1983

「出光無鉛金アポロガソリン」発売

1988

オーストラリアより
当社権益炭の輸入開始

1992

北海スノーレ油田生産開始
米国で潤滑油ブレンド工場 竣工

1993

低ベンゼンガソリン
「出光スーパーゼアス(ハイオク)」
「出光ゼアス(レギュラー)」発売

IDEIMITSU SUPER
ZEARTH

1996

自動車用エンジンオイル
「出光ゼプロ」発売



出光大分地熱(株)
滝上発電所の営業運転開始



2004

出光興産(株)と出光石油化学(株)合併

2006

東京証券取引所市場第一部に株式上場
アストモスエネルギー(株)設立



2010

二又風力発電(株)への参画

2015

土佐グリーンパワー(株)土佐発電所の
営業運転開始

2018

ベトナム・ニソン製油所 商業運転開始

2015

経営統合に関する基本合意書締結

1964 新潟地震 発生、東京オリンピック 開催

1995 阪神・淡路大震災 発生

2011 東日本大震災 発生

1973 第一次石油危機

1979 第二次石油危機

1998 長野オリンピック 開催

2008 リーマンショック

2015 COP21 でパリ協定採択
国連サミットでSDGs採択

1970

1980

1990

2000

2010

2019

経営統合

1962 石油業法 施行(2001 廃止)

2009 エネルギー供給構造高度化法 施行、再生可能エネルギーの固定価格買取制度 導入

1976 石油備蓄法 施行

1986 特石法(特定石油製品輸入暫定措置法)施行(1996 廃止)

2016 電力の小売全面自由化 導入

1963

シェル石油(株)横浜(神奈川県)に
潤滑油工場 竣工

1967

中央研究所 開所(現 次世代技術研
究所)

1969

西部石油(株)山口製油所 竣工

1978

太陽電池の研究開発を開始

1985

シェル石油(株)と昭和石油(株)が
合併、昭和シェル石油(株)発足

1987

新次元ハイオクガソリン
「フォーミュラシェルスーパーX」発売



1993

CIS 太陽電池の
研究開発開始

1996

自動車用最高級オイル
「Shell Helix シリーズ」発売



2002

ハイオクガソリン
「Shell Pura」
発売



2003

ジェネックス水江発電所
(現 東亜石油(株)水江発電所)の
運転、売電事業開始

2005

富士石油(株)との石油製品取引契約を開始

2006

昭和シェルソーラー(株)
設立(現 ソーラーフロン
ティア(株))



2010

天然ガス発電所 扇島パワーステーション
営業運転開始

2014

ハイオクガソリン「Shell V-Power」発売



2015

京浜バイオマス発電所の営業運転開始

2016

家庭用電力販売開始